

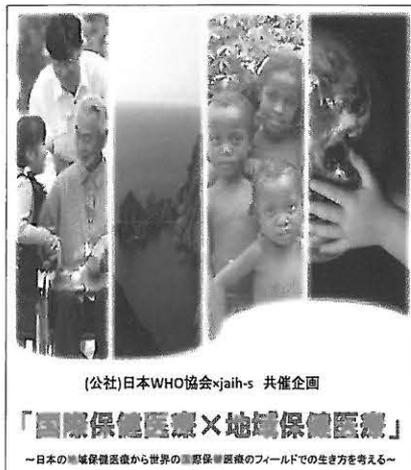
Title	Jaih-sとの共同企画フォーラムII開催報告
Author(s)	関, 淳一; 中嶋, 麻子
Citation	目で見るとWHO. 2012, 50, p. 20-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86737
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

Jaih-s との共同企画フォーラムⅡ 開催報告



将来国際保健分野に関わる若手人材の育成という日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)のめざすところと、当協会の人材育成事業の目的が一致すると考え、昨年に引き続き、大阪大学中之島センターで9月23日に第2回共催企画フォーラムを大阪コミュニティ財団/大阪信用金庫ふれあいスマイル基金からの助成も頂き開催いたしました。Jaih-sの運営委員の皆さんの自由な発想で企画したこのフォーラムを通して、経験豊かな先生方と夢いっぱいの方々との大きなネットワークを構築することができたことを報告いたします。

オープニング

関淳一理事長の挨拶

本年も、jaih-sの方々との共催によるフォーラムを開催する運びとなりました。

今回のテーマは「国際保健医療と地域保健医療」です。テーマの設定、講師の方々の選定などは全てjaih-sの方々企画、立案の段階から作業を進めて来られ今日を迎えました。

国際保健医療と日本国内での地域保健医療が、その本質の部分で、共通点を有することに着目し、それを今年のテーマとして選定されたjaih-sの方々の着眼点の素晴らしさに先ず敬意を表すると共に、共催者としてこの企画に対して心からの賛意を表したいと思います。

国際保健医療と地域保健医療に共通するものは何か。それは、あらゆる分野の保健、医療の本質とも深く通じるものであると私は思います。言葉を変えると、保健、医療の現場での仕事は常に、各々異なる背景の生活、文化をもつ人、人間を相手にしているということではないかと思えます。これは、保健、医療の原点でもあるでしょう。

この様な意味からも、今回のフォーラムが国際保健、地域医療の分野に於ける将来の人材育成への何らかの足がかりを提供するものとなれば、これに勝る喜びはありません。

jaih-s 中嶋麻子代表の挨拶

本日は『国際保健医療×地域保健医療』～日本の地

域保健医療から国際保健医療のフィールドでの生き方を考える～にお越しいただき、誠にありがとうございます。

jaih-sはこれまで「世界のいのちのために」「学生ができること」をスローガンとし、未来の国際保健医療人材を育成すべく様々な企画を開催してまいりました。その中で、今回の企画は「国際保健医療×地域保健医療」というテーマを設定いたしました。日本人として国際保健医療に関わる際に必ず避けては通れない日本でのキャリアとの両立、国際保健医療と日本の地域保健医療との共通点から生かせることはないか、など今回の企画は、参加者の皆様ご自身の生き方、キャリア形成を見つめなおす場となれば幸いです。

世界各地では、今現在も自然災害や紛争などにより、健康な生活を維持できずに暮らす人々が大量にいます。また日本でも東日本大震災や原発問題に端を発して、「健康」や「いのち」の格差を我が身のこととして考える機会が増えたのではないのでしょうか。日本人として、日本のいのちの現状にどのように向き合うべきでしょうか。そして、「世界のいのちのために」私たちは今何をすべきなのでしょう。答えが一つに定まらない問題であるからこそ、皆様と一緒に議論を交わし、考えを深められたらと考えております。

今回の企画が、国際保健医療を志す皆様の、確実な一助となることを願い、今日の皆様との出会いが今後の大切な財産になることを期待してご挨拶とさせていただきます。